

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300907		
法人名	医療法人社団 博文会		
事業所名	グループホーム 永の郷		
所在地	熊本県熊本市南區城南町永1209		
自己評価作成日	平成 26 年 3 月 7 日	評価結果市町村受理日	平成 26年 7月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

旧城南町の中でも嘉島町と緑川を挟む位置にあり、イオンモール熊本からも近く、そこまでの送迎サービスを行っている。建物は安心してゆったりした平屋作り、専用グラウンドを有し、ご利用者の散歩はもちろんのこと、花見やグラウンドゴルフ大会、近所の子どもの遊び場など地域にも開放されているため、朝、夕、休日を問わず誰かが利用されている。このように地域との連携を生かし、澄んだ空気で穏やかな生活環境の中それぞれのご利用者のペースに合わせたケアを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

第一は、地域との関係づくりに積極的であることです。併設グラウンドや駐車場を地域の方々に開放していることありますが、運営推進会議メンバーの多彩な顔ぶれや、事業所関係者以外で緊急連絡網が作成されているなど、地域との関係が密接で、地域の一員として認められています。
 第二に家族会を年に6回行っている事です。
 認知症が進むにつれて、家族が触れ合うことも難しくなります。家族の協力を得ながら、今できることに積極的に取り組んでいます。
 第三は、服薬について専門職と連携を取り、見直す事で体の動きや排泄が自立した利用者がおられることです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ひとりひとりが地域の中で自立した幸せな日常生活をおくる」ための文言が理念の中に謳われており、毎朝復唱することで、理念の共有を図りながら実践につなげている。	管理者は理念の重要性を認識しており、職員が習熟するための勉強会を行っている。また、毎朝唱和することで、理念の共有・実践につなげている。職員の聞き取りからも、声に出すことの大切さと今日一日頑張ろうという気持ちになるということが聞かれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の一員として会報の回覧、併設グラウンドの地域への開放、また当法人主催のグラウンドゴルフ大会の開催、地域運営推進会議メンバー等地域に根ざしている。	事業所は区の一員であると同時に、併設グラウンドや駐車場の地域住民への開放、防火水槽用地の提供など、地域との関係は深いものがある。また、グラウンドでは法人主催のグラウンドゴルフ大会が年に3回開催されており、たくさんの参加があり、おおいに盛り上がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議のメンバーに区長、民生委員、消防団、老人会長、郵便局長、保育園園長等の方々がいらっしゃるので、皆で共有するような取り組みはしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は6回実施しているが上記のメンバー以外に包括、社協、有識者の方々と常に議題についての検討をしている。	運営推進会議は、奇数月の第2木曜日に行われている。外部からの出席者は、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、老人会会長、郵便局局長、保育園園長等となっている。会議では、利用者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見やアドバイスをもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括センター中心の地域ネットワークには常に出席し、協力関係を築いている。	政策変更等の説明会や実地指導に、介護相談員の受け入れ等、市が行う取り組みには積極的に協力している。また、2ヶ月に1回行われている地域包括支援センター中心の地域ネットワークにも毎回出席し、勉強している。また、運営上分からない点や判断に迷うところがあればその都度、担当部署に連絡を入れ、指導を仰いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「NO虐待・身体拘束」をモットーに職員全員意識している。研修、勉強会などで、日常的に全員が共有できるような取り組みをしている。	「No虐待・身体拘束」をモットーに、勉強会を行っている。参考文献として、県人権センターの図書やビデオを利用している。また、有料で行われる勉強会にも参加しており、その際は、時間を取って復講を行うようにしている。職員の聞き取りからも“自分がされたら・・・”“自分の親だったら・・・”と考えることで、虐待や身体拘束をなくすことができるという話しが聞かれた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修では、県のライブラリーの資料での勉強会や弁護士との講演への参加、ニュースなどを朝礼でも取り上げ常に意識を持つような取り組みを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご利用者の中にも直系の家族がいない方もおられるので、いつも考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にお会いして、こと細かい説明で、できるだけご家族の不安、疑問にお答えしているつもりである。契約時もかなりの時間を要している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年6回の家族会開催の場で、できるだけオープンに意見交換ができるような会雰囲気作りにつとめている。	事業所は、偶数月の第4日曜日に家族会を行っている。隣接の事業所と合同で開催しており、グループホームの家族の参加は6～7組程である。出来るだけオープンに意見交換が出来る様、雰囲気作りにも配慮している。好意的な方が多いとのことで、食材の提供等もあるとのことであった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職場内勉強会の場では必ず今の職場の現状を皆に一言ずつ発言してもらおうにはしているが、なかなか本音が言えない場合もある。	職場内勉強会では、全職員に発言の機会を与えている。ただ、全員の前では言いにくいこともあるようで、管理者の話しでは、核になる職員に任せているところもあるということである。職員の話しでは、これまでに食材の調達方法やグラウンドに出るためのスロープ取り付け、また花壇の整備等、改善されてきた事も多々あるということだった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も週一回のペースで事業所に来て、職員とのコミュニケーションを図り、改善に努めている。また、社会保険労務士も月一の間隔で来て、職場環境・条件についての話し合いがなされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政・社協・包括・ブロック会等の勉強会には、特に積極的に参加しているし、講演会にも必ず出席するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会には常に出席している。情報のアンテナは張ってはいるが、満足はしていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前にかかなりの時間を要して、話しを聴くように努めている。さらに契約時にもあらかじめ話しを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現実的には入所されてからの最初の週はかなり緊張感をもって細かい観察につとめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念をしっかり理解体感してもらっているので、家族と同様の意識で生活できていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開かれたホーム作りを目指しているので、いつでも気軽にご家族にきていただき、職員がご家族のお尋ねにだれでも回答できるようにしているつもりではある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近親者の供養や墓参りまた年の節目時はできる限りご家族や馴染みの方々と時間を共有していただきたいと思っているが、年々少数になってきている。	家族会も2ヶ月に1回は開催し、利用者と家族と一緒に食事する機会を設けている。また2週間に1回は、デイサービス利用者との交流も行っている。ただ、長い時間家族と一緒に過ごせる利用者は、少数になって来ているとの事である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	月に一回程度皆様で外出したり、日課の中にもリハビリ体操、今月の歌を3曲程度歌ったりして一緒に暮らす連帯感を感じていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前のご相談にも気軽に応じ、転居先にも惜しまず情報提供を協力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今やりたい希望を叶えられるように、迅速に対応している。例えば、買い物、美容院、帰宅等もちろん帰宅時にはご家族と調整をはかっている。	管理者からは、今やりたいことを出来るだけ迅速に叶えてあげたい、また困難な利用者こそ主体的に支援したい旨の話があった。職員の聞き取りからも、迷いながらも笑顔で一生懸命に接する事や、スキンシップをすることで、“ありがとな”等の感謝の言葉を聞くことが出来るという話が聞けた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からのお話は尊重しつつも、本人とのコミュニケーションや行動の中から今の生活をより本人の意向に近づけられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の1日の生活動向の観察に主眼にして、起床時のバイタルチェック、レク等の参加状況、生活リハ依頼の引き受け方などから現状把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者も皆様の状況を細かく把握できつつあり、昨年に比べよい介護計画ができていように思います。	家族会の他にも家族の訪問が頻繁に行われており、その際に要望等の聴取を行っている。またカンファレンスや毎日のモニタリングを通じて、より現状に即した介護計画が出来るようになった。今の所、主治医等の意見は取り入れていないようである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者が真ん中のプラン作りを皆で考えているまた、記録する際、できる限りネガティブな表現にならないような言い回し方考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	皆様には、いかに自由な空間の中で生活していただくかを職員間のテーマに取り組んでいるのでかなりの部分既存のサービスにとらわれないケアを実践していると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との交流を上手く活用しながら皆様方の豊かな暮らしを楽しんでいただける実践につなげたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を大切に、家族、職員連携しての通院支援、協力医の往診を仰ぎながら、迅速に対応している。	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援して。受診時の付き添いは、家族がする場合と、職員がする場合と半々のようである。また、協力医の往診を受けられる利用者も3名おられる。その他、隣接して事業所があり、必要な場合にはその看護師に相談して、適切な受診が受けられるような支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内の他事業所の看護師に迅速に診てもらったり、相談して適切に受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、病院関係の方とは密に連絡はとっている。職員も頻回に交替で面会し、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現段階では、ターミナルケアは難しい。日常での医療行為が必要になられる直前までは、ケアをさせていただくことをご家族にはりかいしていただいている。	重度化した場合や、終末期の在り方については、契約時に口頭で説明している。日常的に医療行為が必要になったり、経口摂取が難しくなったりした場合には、病院への移送を行っている。また看取りについては、今のところ考えていないとの事であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の応急処置は皆学習できている。しかし、急変時は代表者、管理者が連絡を受け、救急搬送している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域運営推進会議等で災害時の緊急連絡網の作成はしてある。災害訓練は十分とはいえない。	避難訓練は、年に2回行っており1回は消防署の指導の下、また1回は夜間を想定して行っている。その場合、夜勤を行う職員が主体となって、取り組んでいる。運営推進会議のメンバー等で、災害時の緊急連絡網を作成している。災害時の備えについては、現在飲料水について行っている。	これからも、徹底した火の用心と、緊迫感を持った訓練に取り組んで欲しいと思います。緊急時には、訓練以上のことは出来ないと思いますので、日頃からいろいろなことを想定して、取り組んで欲しいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重とは、個々のことを知りたいと思うことから始まるのではないかと考えている。	管理者からは、人格の尊重について利用者ひとりひとりを知ることから始まるのではないかと考えているという話があった。職員からは、認知症だから分からないだろうとは思わないで、健常者と同じように分け隔てなく接することが、人格の尊重だと考えている、という話が聞かれた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の困っていること、不安、要望等に耳を傾け安心して生活していけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にすること、共同生活を楽しむことは相反する場面もあるが、業務優先にならないように、いつも葛藤しながら取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、食後の着替え、入浴後の爪きり化粧、外出時の身だしなみ等いろいろな場面でしえんしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆様のできる範囲の準備、片付けを一緒にしている。また、個々に応じた、食事形態を提供している。	事業所内には、梅の木や柿の木があり、梅干しや干し柿を利用者と一緒に作っている。梅干しは日頃の食卓で、干し柿は正月に皆で食べたということであった。また、食が進むようにミキサー食や、お粥、トロミ付等個別対応を行っている。朝の牛乳と昼のヨーグルトは定番となっており、便秘対策として取り入れている。また、菜園では、季節折々の野菜を栽培しており、食卓を賑わしていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の準備は、ご利用者も個々の状態に応じた食事形態の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性は職員、ご家族とも理解しているので、力を注いでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンが把握できているので、ほぼ実践できていると思う。	排泄がほぼ自立している方が6名、3名の方が時間と、立ち上がろうとする、むずむずする等の特徴をつかみ、トイレでの排泄を支援している。中には、尿意を感じるようになり、体が動くようになった利用者もおられるようである。理由を聞くと、薬を減らしたこと、職員との信頼関係が築けたことではないだろうかとの事である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンはつかめているので、個々に応じた取り組みがほぼできている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3～4回で入浴していただいている。曜日や時間は基本的には決めていない。	入浴回数は週に3～4回を予定している。必要な場合には、その都度対応するようにしている。時間は、午前中の事が多いようである。入浴拒否については、時間を空けて声掛けしたり、違う職員が対応したりと、無理強いをしないで翌日にずらすこともあるとの事である。また、ゆず湯やしょうぶ湯の季節を感じる入浴支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時刻を設定していないので、その方ひとりひとりのサイクルに合うようにしている、皆様方よく眠られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援はご利用者の命に直結する問題なので職員ひとりひとり自覚している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活にリズムをつける意味で「体操」「今月の歌」を皆様と決めている。また、併設のグラウンドでは、日常的な散歩、季節の花見、柿、梅の収穫、菜園での野菜栽培などを楽しみの一つにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	美容院は定期利用されている。また、季節感を味わえるように、最低月一程度はドライブ、外出をしている。ご家族には時折お願いしている。	隣接のグラウンドを利用して、散歩を行っている。グラウンドの周囲には桜の木が植えられており、また柿の木や梅の木も植えられている。季節折々に花見だったり、収穫だったり利用者との憩いの場をなっている。また、月に1回はドライブ支援を行っている。紫陽花やコスモス、紅葉見物等の支援も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができればの方が極めて少数なので買い物希望られるかたは、買い物支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかることもまれでほぼ皆様難聴である。手紙を出したりする方もほぼおいでにならない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間の経過と共に今にふさわしくない空間もあるが、創意工夫、職員の知恵で住みよい環境作りをしたい。	事業所は南向きに建てられており、しかも妨げるものがない為、利用者が集まれるリビングはとても明るく、穏やかな雰囲気でした。室内環境にも気を配っており、換気を頻繁に行っている。また清掃には、EM菌を薄めて使用しているようで、そのせいもあってか、異臭などは一切ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの大きさや配置など四六時中職員で思案している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の意思を尊重して、配置していただいているが、レイアウトでご本人にリスクが考えられる時には職員がアドバイスする場合がある。	居室の設備は、ベッド、クローゼット、空調、カーテン等となっている。寝具や日用品等は、使い慣れた物を持参してもらうように話している。部屋には、家族写真を貼って、居心地良く過ごせる様、工夫がしてあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	近いうちにリフォームし、今よりも皆様が安全で安心でき、自立した生活が送れるようにこれを活用して、職員で考えていきたい。		